



教育を拓き，耕し，人を育てる

= 総合教育センターでの研修を活かす =

所長 大嶺 和 男

現在，地球上で人類が直面している重要で，かつ喫緊な問題のひとつに環境問題がある。とりわけ経済産業活動に伴って発生している二酸化炭素による地球温暖化現象は深刻である。

二酸化炭素の排出量を抑制するため，国際政治レベルで熱い論議が展開されているばかりでなく，企業や個人レベルでも多くの人々が様々な活動を通して，その問題解決に努力している。学校教育における環境教育も然りである。

最近頼に目につくのが，バイオエタノール の話題である。その二酸化炭素抑制効果や他の食糧用穀物との関係で評価は分かっているが，ガソリン等の化石燃料よりも地球環境に優しいということで，バイオエタノール使用車は，ハイブリッド車や電気自動車と同様に排出ガス抑制効果の面で注目を集めている。

今，自動車業界は車の排出ガスによる地球温暖化問題を直視し，弛まぬ技術革新によって問題解決に心血を注いでいる。

その中核を担っているのは，日夜，研究に研究を重ね，新しい技術開発に打ち込んでいる人々である。常に時代の先を考え，人々の生活環境や地球の環境に即した自動車の在り方考え，研究・開発し，本物にしていく。すなわ

ち，「自動車道」を拓いている人々である。

例えとして妥当かどうか，少々疑問はあるが，「教育を拓く」とはこういうことではないだろうか。教育の明日を見据え，環境の変化に即し，その在り方を考え，日夜，研鑽を積み，教育を極めていく。教育に携わる者一人一人が，「隗より始めよ」の気概を持ち，弛まぬ研究（研修）を重ね，教育を拓き，自らの教育実践を耕し，豊かなものにしていく。そして次代を担う子どもたちを育てる。このことが崇高な教育の使命ではないだろうか。

本総合教育センターは，沖縄県立の教育研究機関であり，教育の調査研究や教職研修等の中枢機関として，その果たすべき使命と役割は大きいものがある。先日の前期長期研修の先生方の成果報告会が，その証左の一端であったと思う。個々が，担当主事の指導のもと，今日的教育課題に真正面から取り組み，様々な切り口で課題解決に迫る熱意と独創性は，「教育を拓く」気迫が感じられた。今後，その成果を活かして，学校現場での教育実践を豊かなものにしていき，自ら研究・開発した指導方法や教材，教具等に自信と誇りを持ち，子どもたち一人一人の可能性を限りなく伸ばしていって欲しい。

* * * * * も く じ * * * * *

● 巻頭言 教育を拓き，耕し，人を育てる = 総合教育センターでの研修を活かす =	1
● 「平成19年度前期長期研修成果報告会」「平成19年度県立総合教育センター調査研究事業」	2
● 学校支援としての教師の指導力の向上を目指して（平成19年度短期研修総括）	3
● 特別支援教育の充実にむけて	4
● 「美ら島 e-net（遠隔学習）システム構築事業に係る検証」「教育情報化推進講座」	5
● 「教育相談事業の紹介」「前期特別講演」	6
● ライフステージに応じた経年研修	7
● 「研修を終えて」「科学的に環境をしらべよう」	8

平成19年度前期長期研修成果報告会



平成19年度前期長期研修成果報告会が9月12(水), 13(木), 14(金)の3日間開催されました。今年も本館講義室で行い, 前期研修員24人, 離島長期研修員4人, 計28人が発表しました。発表内容は各自の研修テーマに基づき, 今日的教育課題解決のための, 意欲的で熱意が伝わるものであり, どの発表においても活発な質疑がなされました。長期研修は「今日的教育課題を解決, 改善していくために, 教科・領域に関する理論及び実践力の向上と文化的教養の深化を図り, 使命感を持った積極的な人材を育成し, 学校教育の活性化と発展に寄与する」研修と

して位置づけられております。先生方は, 4月以来, 「研修計画検討会」や「中間検討会」, そして「研修成果報告書検討会」を経て, 最終的なまとめを行いました。

研究成果が, 単なる発表で終わるのではなく, 学校現場でどのように生かされ児童生徒の心をどうとらえ, 実践していくのが重要です。本研修成果報告会を「これからが始まり」としてとらえ, 研修や研究の成果を児童生徒に還元できるよう期待しています。



前期成果報告会の様子



平成19年度 県立総合教育センター調査研究事業



プロジェクト研究 「沖縄県におけるキャリア教育推進事例研究」

今日, 経済のグローバル化や雇用の多様化・流動化など児童生徒の進路をめぐる環境は大きく変化し, フリーター, ニートと呼ばれる若者の増加は大きな社会問題となっています。これらは本県教育においても大きな課題であり, 課題解決に向け取り組むことは喫緊の事柄です。本県においては, 行政, 地域, 学校が連携しインターンシップの100%実施や中学校における職場体験の充実, 小学校における職場見学の定着など, 児童生徒の望ましいキャリア育成に進展を見せています。しかし, 一人一人の児童生

徒の望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識, 技能を身に付けさせることや自己の個性についての理解と主体的に進路を選択する能力・態度を育成することについては, まだまだ改善が必要です。そこで今年度の本センターのプロジェクト研究のテーマを「キャリア教育」とし, キャリア教育の推進に役立つリーフレットや実践事例集の作成を行うこととしました。これらを活用し, 学校が組織的, 系統的, 継続的にキャリア教育に取り組めるよう支援を行いたいと日々研究に取り組んでいます。

学校支援としての教師の指導力の向上をめざして

～平成19年度短期研修総括～

短期研修講座は、教科・領域等に関する指導力の向上を図るとともに、教職員としての資質を高める目的で、主に夏季休業期間中に実施されています。当総合教育センターが主催する平成19年度の短期研修講座は、59講座を開設し、2,500人余の応募者がありました。

今年度は、特別支援教育関係の講座への応募者が増加して、「軽度発達障害教育」講座では、定員103人に対して、371人の応募がありました。特別支援教育課では、今年度から新たな自主講座として「特別支援学校・特別支援コーディネーター支援」講座を開設して学校支援にも対応しています。

学校現場からの要望の高い「小学校国語」講座や「小学校算数」講座においては、同一講座を複数開設等を実施しています。

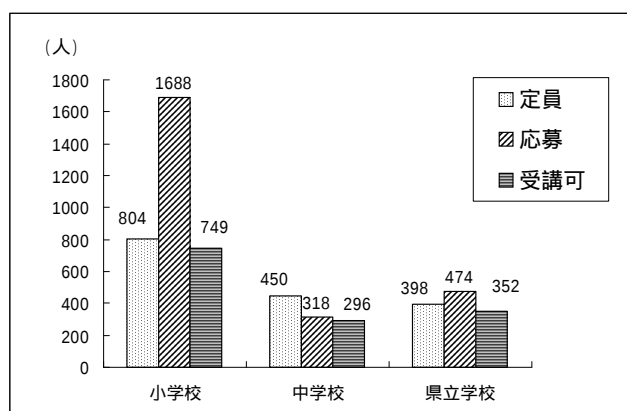


図1 平成19年度 短期研修応募状況

また、短期研修講座への応募・受講「可」の状況をみると、小学校の場合は約1,700人の応募者があるにもかかわらず5割以下しか講座を受講できませんでした。県立学校の場合は、昨年度よりも応募者が定員を上回ったが、中学校は、応募者が定員を2年連続で下回っている状況であります（図1）。今後は中学校での魅力ある短期研修講座の設定について検討する必要があります。



{ 講座紹介 }

～小学校図画工作実技講座～

図画工作の在り方について理解を深めるとともに、事例発表や実技研修を通して指導力の実践的能力を高めることを目的に、午前中に事例発表と「漆喰シーサー」に関する理論研修、午後は「漆喰シーサー」の「骨格」→「肉付け」→「彩色」の流れで実技研修を行いました。

《参加者の声》

○初めての漆喰シーサーづくりでしたが、楽しく自分なりに満足したものができ、大満足です。またやりたいと思いました。やはり、体験したり、実演できる講座がいいです。目で見て、手でふれたりすることが出来るのがいいです。

○子どもたちも喜んで参加できる授業や取組を知ることができる講座の内容はいいと思います。実習があると、知識だけでは得られない感覚や感動もあるので、今回すごく良かったです。



写真1 漆喰シーサー実技研修



写真2 漆喰シーサー作品



特別支援教育の充実へ向けて

平成 19 年 4 月 1 日、「学校教育法等の一部を改正する法律」が施行され、特別支援教育が学校教育法に位置づけられました。これにより、すべての学校において、特別な教育的支援を必要とする子どもたち一人一人の教育的ニーズを踏まえ、その対応が図られることとなりました。

これに伴い本センターの特殊教育課も「特別支援教育課」へ名称を変更、4 月 27 日に看板上掲式を行い、課長以下課員一同、特別支援教育の充実に向け、決意を新たにしました。式中の

あいさつで、大嶺所長は「特殊教育からの大きな変化に対応すべく、教育相談や調査研究、研修等の諸事業のよりいっそうの充実が図られることを望む」と課員を激励、県内の特別支援教育の推進へ向け、同課への期待を述べられました。また、当日は、新聞社 2 社が取材に訪れ、特別支援教育に対する社会的な関心の高さがうかがえました。



学校等への支援・協力の状況

今年度、幼稚園・小学校・中学校からの校内研修依頼に対し、市町村の教育委員会を通して受け付けるという本来の手順を遵守しています。各教育委員会には、複数校まとめた研修実施をお願いすることにより、激増が予想される研修依頼への対応を図りました。

今年度の 8 月末現在の状況は、表 1 のとおりです。特に、発達障害に関しての校内研修の依頼が多く、担当主事は県内各地を東奔西走、特別支援教育の充実に向け奮闘中です。

応援を行った関係機関	件数
幼稚園・小学校・中学校	3
特別支援学校	0
高等学校	12
各教育事務所	25
各市町村教育委員会 (幼稚園・小学校・中学校含む)	19
その他(外部研究会等)	18
計	77

表 1 特別支援教育に係る支援・協力(講師、指導助言等)

障害児の教育相談の現状

年々増加を続ける教育相談件数。今年度の障害児来所教育相談事業における相談件数は、4～7 月の実績で、昨年の 98 件から 133 件(約 36%増)へ、延べ回数では 137 回から 181 回(約 32%増)となっています。全件数のうち発達障害関連として受け付けられたものは 53 件ですが、相談内容からその可能性をうかがわせるものが多く、発達障害に対する支援のニーズの高まりとともに、本課の教育相談事業が各学校に広く認識されてきたことが実感されます。

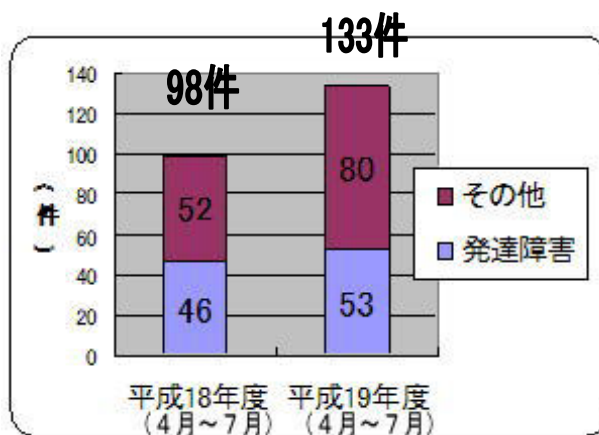


図 1 教育相談件数及び発達障害に関する相談の比率



美ら島 e-net (遠隔学習) システム構築事業に係る検証

IT教育課では、離島へき地におけるネットワークを活用した学習支援システム事業として、今年3月に構築した「美ら島 e-net (遠隔学習) システム」の試験運用を進めています。美ら島 e-net (遠隔学習) システムは、教育センターWeb ページにログインすることにより、学習管理システム、コミュニケーションシステム(メール、掲示板、TV 会議等)、教育情報共有システムの各機能をスムーズに活用できるシステムです。

検証協力校による検証協力期間(委嘱期間)は、平成 19 年 4 月 1 日から平成 20 年 3 月 31 日までの1年間とし、検証協力校対象地区及び対象校は、宮古地区は宮島小学校、城辺中学校、翔南高等学校、八重山地区は与那国小学校、船浦中学校、八重山商工高等学校、本島地区は嘉手納小学校、北中城中学校、西原高等学校の以上9校です。検証内容は、(1) システムやネッ

トワークの接続及び動作等に関する検証、(2) 学習管理システムやコミュニケーションシステム(メール・掲示板・TV 会議等)の活用に関する検証、(3) 教育情報共有システムの活用に関する検証を行っています。7月27日には検証協力校の担当者を集めて「遠隔共同学習講座」を実施し、システムの運用方法や操作について研修を行いました。また、平成 20 年度は、今年度の検証をもとに、その他の離島へき地の学校を含めた運用を予定しています。



全島の規模で行われた「教育情報化推進講座」

昨年に引き続き、教育情報化推進リーダーを養成し、各学校で校内研修が実施できるようにするため、教育情報化推進講座を開催しました。

今年は、6月1日から25日までの間に、小・中・高等学校及び特別支援学校から一人ずつ計486名が参加し、ICTを活用した授業実践、生徒の情報モラルの育成、学校における情報安全管理への取り組み等について研修を行いました。

その結果、これらの講座内容を活用した校内研修が実施できるように、また学校の情報化を推進できるように教育情報化推進リーダーを各学校2名程度養成することができました。



情報化推進講座の様子

「欲しい情報がすぐにご覧になれます!!」

本総合教育センターでは、教育情報共有システムで長期研修報告書、本総合教育センター刊行論文がご覧になれます。下記のアドレスにアクセスしてどうぞご利用ください。

<http://www.open.ed.jp/>

教育相談事業紹介



「問題を抱える子ども等の自立支援事業」

文部科学省委託の「問題を抱える子ども等の自立支援事業」の一環として、兼城賢吉、竹本祐子、新里光子の3名が訪問指導員として平成19年7月18日に県教育長から委嘱され、総合教育センターに配置されました。3名の先生方は、今年の3月に校長を退職されたばかりですが、県内の児童生徒のために実効性のある訪問指導とするために、張り切っております。

また、訪問指導員の主な業務は、以下の通りです。

【目的】いじめ、暴力行為、児童虐待及び不登校について、未然防止、早期発見・早期対応等の効果的な訪問指導の実施方法について調査研究を行う。

【内容】(1) 市町村等の生徒指導事業実施機関を訪問し、不登校児童生徒の実態と、その児童生徒に対する支援体制・訪問指導の実際等の調査。(2) (1)の調査結果を基に、訪問指導の実施方法について研究し、地域で活用することができる訪問指導マニュアルの作成。(3) 地域で訪問指導を実施する者に対する指導・助言。(4) 地域で訪問指導を実施する者に対する研修

の実施。(5) 不登校児童生徒への訪問指導に関して、所長が必要と認め、指示した事項に関すること。

平成19年度は、研究テーマを「児童生徒の問題行動に係る効果的な訪問指導のあり方」、サブテーマを「不登校児童生徒へのサポート体制の調査と訪問指導を通して」として、9月から県内各教育事務所、各適応指導教室等を訪問し、調査を進めています。今後は、青少年センターや警察・福祉関係機関等を訪問する予定である。



新里光子先生 竹本祐子先生 兼城賢吉先生(写真左より)



前期特別講演会

門脇厚司先生

6月28日の前期特別講演会で筑波学院大学長、門脇厚司先生は静かに、そして訴えるように、こう語られました。「人は繋がりの中で生き、より良い人間関係をつくらなくてはならない。それが社会力であり、まず大人が地域に役立つ人間となること。子供たちの真の友達は私たち大人である。大人が子どもときっちりかかわれば、子どもに欠けている社会力の大本なるものは確実に培われる。今こそ、それが求められていると思います。」それは、今日の子供たちに関係した様々な社会問題を危

惧し、何とかより良い環境をつくってあげたい、という教育社会学第一人者としての重い言葉でした。

聴講した研修員からは、「より良い社会力を持った子供を育てることで今の日本を変えることができる。」「子どもの社会力を育てるためには、大人自身が社会力を鍛えねばならない、ということを感じました。」「教師として、一人の人間として他人の気持ちがわかる思いやりのある人間にならなければ！と気づかされた講演でした。」などの前向きな感想が多数聞かれました。

この講演を生かすべく、子供たちに「生きる力」を与える情熱とより良い教育の実践を目指し、共に頑張っていきたいものです。

ライフステージに応じた経年研修

～ 初任研・5年研・10年研・15年研～

総合教育センターでは、初任者研修や教職経験者研修(以下「経年研」として5年研・10年研・15年研を実施しています。中でも初任者研修と10年経験者研修は、法定研修として実施しています。今回は、今年度を実施した初任者研修並びに5年経験者研修を中心に紹介する。

【初任者研修】

初任者に対し「実践的な指導力と使命感を養うと共に幅広い知見を得させる」ことを目的として、小中初任研は5日間、県立学校初任研は23日間を当センターで実施している。

8月16日(木)は328人参加による全校種(幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭)合同の研修「国際理解教育」「沖縄の伝統文化」を「国立劇場おきなわ」で開催した。

目的

(1) 学校における国際理解教育の進め方を学び、国際理解教育推進への意識の高揚および変容を図る。(2) 郷土の伝統文化を鑑賞することによって、歴史や文化への関心を深め、それらを尊重する態度を養う。

内容

(1) 国際理解とは～他人事が私事に～をテーマに講義及び参加型学習
(2) 琉球舞踊並びに組踊「執心鐘入」の鑑賞

感想

「国際理解教育とは、一人一人の違い(文化の違い等)を受け止め、困っている人がいたら手をさしのべることができる心、思いを持つことだと強く感じた。

ワークショップを交えながらの楽しい学びだった。楽しいながらも授業に使える活動がたくさんあり、是非取り入れたい。



国立劇場おきなわにて

【10年経験者研修】

目的：教職10年目の経験を有する教諭に個々の能力、適正等に応じて必要な事項に関する研修を行い、教科指導、生徒指導に関する指導力の向上を図る。

期間：平成19年7月25日～8月21日(15日間)

内容：教科指導研修6日間(模擬授業も実施)

生徒指導研修4日間、選択研修5日間

学校を支える中堅教員として指導力の向上を図ると共に多岐にわたる研修を実施することができた。

【5年経験者研修】

目的

5年目の教育実践を踏まえ、本県教育課題を理解し、教育実践力の一層の向上を図り、学校教育の充実改善に資する。

内容

第1回：本県の教育課題、生徒指導研修、他

第2回：専門分野に係る指導法改善の研修

感想

(1) 第1回生徒指導関係のレポート作成と分科会

自分がやっている実践を他人の実践を通して見直すことができた。

各学校で悩んでいることがあり、みんなで解決の手だてを出せたり、やってみたい実践方法もあった。

少人数で具体的な内容について話し合えたので実りある時間だった。

(2)教科指導の充実

教材作りをしたり、紹介してもらったり、すぐに授業に使える。同じ教科で情報交換しながら具体的な実践について学ぶことができた。久しぶりの研修でとてもためになった。特に教科における実践事例の講義はよかった。

宮古・八重山での講座開催

第1回5年研は本島・久米島地区は総合教育センター、宮古・八重山地区は、宮古高等学校、八重山高等学校にて開催した。



IT教育棟にて

【15年経験者研修】

目的：校内のリーダー的役割、全校的視野に立った指導力の深化、学校の活性化、学校教育目標の実現に資する。

期間：平成19年8月22日・23日

内容：学校経営参画に係る研修

学校経営の視点に立った元気の出る学校作りについての研修を深めることができた。



研 修 を 終 え て



特別支援教育課 知的・情緒障害教育
県立大平養護学校教諭 稲田洋一

私は、鳥がさえずり、木漏れ日と微風、ホスピタリティに満ち溢れ、訪れる人々に笑顔と元気を与えてくれるこの空間がとても気に入っている。優しく温もりを感じる主事のサポート、明るく気配り上手、何事においても限度知らずの愉快的仲間たちと学び合えた日々、そしてすべてを包み込む課長に感謝。半年間の研修では、沢山の文献にふれ、多くの方から様々な知識を得、「生徒に寄り添う」ことの重要性を再確認できた。これから精励恪勤することを胸に秘め現場に戻りたい。



教科研修課 小学校英語活動
浦添市立当山小学校教諭 波平りえ子

私が、この長期研修に応募したのは、これからの小学校英語のあり方や自分自身の英語力のブラッシュアップを図りたいという思いからでした。6か月間の研修では、これらすべての願いを叶える充実した日々を送ることができ、小学校英語の方向性についてもしっかり考えることができました。また、志を同じくした仲間と交流できたことや本研修を常に支えて下さった主事の方々に出会えたことは、私にとって大きな財産となりました。研修で学んだことを今後の教育実践に生かし、さらに自己研鑽を積んでいきたいと思います。



理科研修課 技術研究室
浦添市立仲西中学校教諭 坂元 裕

昨年、教職10年を終え、節目としてセンターへ応募しました。半年間の研修では、教科の研修はもちろんのこと、IT、特別支援、生涯学習など、様々な講座を受講することができ、教員としても人としても成長できたと実感しております。理科研修課では、厳しい主事の指導のもと行われた野外実習、実験、観察などは、貴重な体験となりました。

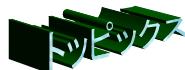
また、同課の研修員にも恵まれ、他校種の先生方との交流や情報交換を通して、連携の大切さを知り、教員としての視野を広げることができました。



教科研修課 保健体育研究室
那覇市立宇栄原小学校教諭

長嶺文士郎

教育センターの一日は、朝の清掃活動から始まります。「どんなに研修を重ねていっても、足元をおろそかにせず、汗をかく仕事でも明るく楽しく仲間と取り組むことが大事なんだ」、そんな諸先輩方の言葉が聞こえてくるようです。毎朝美しい風景を目にすると、このすばらしいセンターの草花も、現場の子どもたちも、毎日愛情を持って接することですくすくと成長するのだということをあらためて考えさせられました。センターにおけるすべての出会いに感謝し、この実り多き半年を糧に、各職場で子どもの笑顔という花を満開に咲かせていきたいです。



科学的に環境を調べよう

産業教育課では、産業界の技術革新に対応するため、平成16年度から5年間で第二次設備整備計画により高度な産業機器を導入しています。

地球規模の環境破壊が問題となる中、環境教育の重要性が高まっています。

平成18年度に導入された「土壌・作物体検査学習、環境学習システム」は、電子顕微鏡やイオンクロマトグラフィなどの環境分析装置を揃えており、水質や土壌などの環境分析を詳細に調べることが出来ます。

産業教育以外でも理科教育や総合的な学習の時間でも本システムを活用しており、環境問題へ主体的に取り組む態度の育成に役立ててほしいと期待します。



理科教育での電子顕微鏡の活用